

インフォメーション

全農育成の水稲品種「はるみ」

～平成27年度から神奈川県奨励品種に～

神奈川県の水稲主力品種「キヌヒカリ」は、奨励品種として採用されてから既に25年以上が経過しており、近年では玄米品質の低下が問題となっていた。このたび、「キヌヒカリ」に代わる水稲品種として、全農育成の「はるみ」が、平成27年度から神奈川県奨励品種に採用されることが決定した。民間企業・団体が独自に育成した水稲品種では、全国で初めての奨励品種である。今回は、「はるみ」の特性や神奈川県における普及の取り組みについて紹介する。

「コシヒカリ」よりつやがあり、甘味が強い

「はるみ」は、「コシヒカリ」と「キヌヒカリ」を両親として全農 営農・技術センター（神奈川県平塚市）が育成し、平成26年に品種登録された（写真－1）。品種名は、育成地である神奈川県湘南地域の「晴れた海」に由来する。



写真－1 全農が育成し、平成26年に品種登録された「はるみ」

育成地における「はるみ」の出穂期と成熟期は、「キヌヒカリ」と同等の早生であり、短稈で倒伏しにくく、栽培の安定性に優れる（表－1）。しかし、年によっては、多肥条件で若干の倒伏がみられることもあるため、肥培管理には注意が必要である。

「はるみ」の米飯は、「コシヒカリ」よりつやがあり、甘味が強い（図－1）。玄米品質も、「キヌヒカリ」より整粒が多く、心白・乳白粒が少ない（データ省略）。また、「はるみ」は、穂発芽しやすいという「キヌヒカリ」の特性を改善した品種であるため、収穫期の降雨による品質低下が起りにくい（写真－2）。

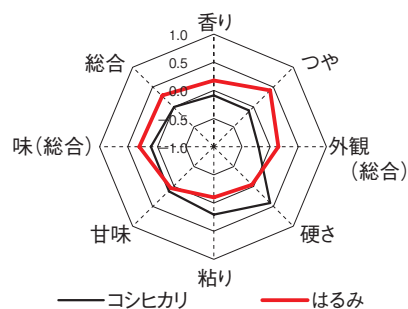
表－1 「はるみ」の特性概要

品種 系統名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	精玄米重 (kg/a)	比較比率 (%)	千粒重 (g)	倒伏
はるみ	8月9日	9月17日	80	18.3	365	58.7	116	21.5	0.7
キヌヒカリ	8月9日	9月17日	84	17.4	326	56.6	112	21.3	0.0
コシヒカリ	8月9日	9月17日	92	19.1	352	50.7	(100)	20.4	3.0

平成16～18年、営農・技術センターでの栽培成績の平均値

「神奈川生まれ、神奈川育ち」で普及推進

神奈川県では、平成22年に「はるみ」が産地品種銘柄に設定された。全農では、J A全農かながわと連携して



図－1 「はるみ」の食味



写真－2 穂発芽性試験の結果（上から「キヌヒカリ」「はるみ」「コシヒカリ」）

業務用適性や高温耐性にも期待

「はるみ」の米飯は、表層老化度が「コシヒカリ」より低く、冷めても硬くなりにくい（データ省略）。しっかりした米粒は、丼物などの相性もよく、業務用としての需要にも期待ができる。

「はるみ」は、登熟期の高温による品質低下が起りにくい傾向にあり、全農では、引き続き栽培特性を調査する計画である。「キヌヒカリ」は、全国で約44,300ha（平成25年度作付面積）普及していることから、今後、他県での展開の可能性も併せて検討していく予定である。

【全農 営農・技術センター 農産物商品開発室】